

大学名：鳴門教育大学

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します（加盟に関する相談も含む）	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	特に無し。（理由：相談のニーズが無かったようで、どこからも相談を受けていない。そもそも、四国内唯一の支援大学である鳴門教育大学は四国の北東端に位置しており、四国内の学校からしてみれば、非常に距離が遠い。また、四国内では、各地域で独自にコーディネーターや組織・団体が充実しており、ユネスコスクールを目指す学校は各地域において身近な組織等に支援を求めているようである。ただし、大学としてユネスコスクール支援を実施していることは 教員教育国際協力センターの「活動内容：ユネスコスクールの活動支援」（ https://www.naruto-u.ac.jp/incet/activities/activities08.html ）にて公開している。）
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	特に無し。（理由：同上。）
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	特に無し。（理由：加盟済のユネスコスクールから ESD/SDGs に関わる支援の要請を受けなかった。詳細な理由は上記を参照。）
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	特に無し。（理由：四国内のユネスコスクールは各地域で独自にコーディネーターや組織・団体が充実しており、各地域においてそれぞれ支援を求めている。そのため、支援大学である鳴門教育大学に資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップに関する相談や依頼は無かった。）
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	特に無し。（理由：同上。）
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	特に無し。（理由：同上。）
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	学外の委員会等に出席した時にユネスコスクールの活動なども紹介している時があるが、そもそも関わっている学校がすでにユネスコスクールだったり、教育委員会自身がユネスコスクールを非常に積極的にサポートをしている。

	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	学外の委員会に出席した時や学校訪問を行った時に四国 ESD 活動センターや地域の NPO 法人等による活動支援を紹介している。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	新居浜市において実施されている ESD コンソーシアムに鳴門教育大学は参加しており、そこで教育委員会や愛媛大学、その他の組織・団体と情報交換を行っている。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	鳴門教育大学では数多くの JICA 留学生が在籍しており、グローバル教育コースの教員がさまざまな教育委員会や学校（ユネスコスクールを含む）を訪問する時に留学生も連れて行き、学校で児童生徒たちと交流するように心がけている。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	鳴門教育大学では数多くの JICA 留学生が在籍しており、グローバル教育コースの教員がさまざまな教育委員会や学校（ユネスコスクールを含む）を訪問する時に留学生も連れて行き、学校で児童生徒たちと交流するように心がけている。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	特に無し。（理由：上述したように、各地域にいるコーディネーターや各地域の組織・団体と連携しているため、鳴門教育大学が直接ユネスコスクールのグローバルな活動を支援したことは昨年度無かった。）
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	できていない。（そもそも ASPUnivNet の担当教員（実質 1 名）の授業において、ESD や SDGs には言及しているが、ユネスコスクールの具体的な実践事例やその意義まで授業をしている時間がないため。）
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	学内で SDGs 等に触れている授業はいくつかあるようであるが、具体的内容までは情報共有されていないため、具体的にユネスコスクールにかかわる教育をおこなっているかどうかは不明である。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	少なくとも本学の担当教員はユネスコスクールに関する調査研究はおこなっていない。（理由：研究テーマがユネスコスクールとは違うため。）大学ないにはもしかしたらユネスコスクールに関連した研究をおこなっている教員もいるかもしれないが情報不足のため不明である。
	④ その他	第 4 回四国高校生探究活動発表会（四国まんなか高校生探究活動サミット）において ESD/SDGs の教育関係者として審査員を依頼され、参加した。参加校にはユネスコスクールは特に無かったが、SDGs 等に絡めた探究活動について審査を行い、高校教員には今後の活動で必要があれば、支援が可能なことも伝えた。

6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	できていない。(理由：四国内では鳴門教育大学が唯一の加盟大学であり、他地域の加盟大学とは連絡会議以外で情報共有を行っていないため。)
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	できていない。(理由：同上。)
	③ その他	